

この原稿は3月21日に書いています。今年はまだ新宿中央公園の寒桜の花も少なく、なかなか春の暖かさを満喫できません。

昨年は早起きしてよく行ったゴルフも、雪の為に中止する事が多い初春でした。運動し爽快な汗をかく事が好きな私は、最近よくジムに行きますが、やはり太陽の下でのスポーツの気持ち良さは味わえません。早く薄着で外出できる気候になることを願っています。

睡眠時無呼吸症候群

今回は睡眠時無呼吸症候群の話を少々。

勿論、私は睡眠障害の専門医ではありません。先日東京医大での勉強会でこの病気の講演を聞き非常に興味を持ち論文を読みました。

この病気は、夜間睡眠中に呼吸が止まる時間が多く身体が低酸素状態となるため、突然目覚めたり、睡眠の質が悪いため起床時の頭痛、昼間の眠気、倦怠感などの症状が出ます。奥様に「いびきが騒々しい、息が止まっている。」などと言われる方は要注意です。

2000年以降トラックや高速バスの居眠り事故の報告で話題になるまで一般的には認知されていなかった病気ですね。睡眠時の患者さんの観察が可能となり病態が解明されてきました。



この病気は首周りに脂肪の多い肥満者特有のものと思われていますが、顎の小さいスマートな顔立ちの方でも気道が狭いために患っている場合もあります。

数年前に様々な血圧の薬を内服しても血圧が下がらない高血圧の患者さんが外来にいらっしゃいました。私は、身体の中に血圧を上げるホルモンを産生する腫瘍があるのではないかと考えましたが、この患者さんは無呼吸症候群のため血圧の低下がより困難になっていました。夜間の低酸素状態のため夜間や早朝の血圧が上昇したようです。

また、高血圧病ばかりでなく、不整脈や心不全などの循環器疾患と糖尿病などのメタボリックシンドロームの悪化との関係も分かってきています。

無呼吸症候群を疑った患者さんは専門の医療機関で1泊し装置を付けて呼吸の止まっている時間や頻度、低酸素の状態を観察します。また、自宅で行える簡便な装置もあるとの事です。一般に治療は自宅で夜間装着する陽圧マスクで行います。ご自身がこの病気ではないかと思われる方は医師に相談下さい。

今日は休日、朝診療所に向かう途中は、患者さんと挨拶や話をしながらブラブラ散歩気分でした。遅い春の訪れを感じつつ亡父の墓参りに家族で行って来ました。これからは、皆さんも春を楽しんでください。



伊藤外科内科医院 HP

<http://www11.ocn.ne.jp/~itoh-hp>

(バックナンバーは HP にて公開中です)



漢字類編

監修：白川 静

言葉の意味は時代によって変わる。例えば、戦国武将の直江兼続は兜に「愛」の文字を掲げていたことで有名だが、戦国時代の「愛」と、現代の我々が使っている「愛」は、必ずしも同じ意味じゃない。その言葉、文字が本来持っていた意味（言い換えると、古代の人たちがどういう意味でその言葉を使っていたか）を知ろうとする時、まず手に取るのは辞典だろう。

ここのところ、こんな調べ物が多いので、古語辞典を始め、いろんな辞典にお世話になっている。とはいえ、辞典は高い！ 広辞苑や古語辞典ぐらいいは手元にあるが、『大漢和辞典』や『国史大辞典』のような複数冊になっているものは、徒歩3分の区立図書館にお世話になっている。三省堂の『時代別国語大辞典』もあるといいのだが、残念ながら住宅地の小振りな図書館には、そこまでの所蔵がない。このほかにも昭和初期に作られた『大言海』などもかなりお気に入りで購入したいのだが、今のところ近所の図書館で我慢している。

文字調べで欠かさないのが、古代漢字学の権威・白川静氏の辞典だ。『字統』『字訓』『字通』が有名だが、金額的降り合いがつかないのと漬物石ほどの重さと大きさゆえ、まだ図書館に頼っている。ところが昨年、この3つの辞書より先に作られた『漢字類編』を格安で手に入れた。辞典として拾われている文字数は絞られているが、象形文字としてしての漢字を知る上でたいへん興味深い辞典である。2006年に96歳でその生涯を閉じた白川氏の漢字文化に対する情熱はワタクシなどが語れることではないが、その著作数を見るだけでも胸が熱くなるものがある。甲骨文や金文といった最古の文字に対する解釈は、哲学的で魅了される。今、私の手元には辞典以外にも未読の著書『古代中国の文化』『孔子伝』があるのだが、早くこれらをじっくり読む時間が来るといいなあ。

ところで、その昔、日本には文字がなく、大陸の「漢字」を借りて文字を記すようになったことはご存じの通り。漢字は表意文字である。だが、日本語（やまと言葉）は本来、「音」の持つ意味がとても重視されてきた。例えば「人」という漢字は立っている人を横からみた形だという。だが、日本語（やまと言葉）の「ヒト」は「ヒ」は「日・霊」を、「ト」は「所・物」を意味すると考えられている。つまり、「ヒト」は「霊の留まる所」である、と。

日本人がなぜ自力で文字を生み出さず、漢字を借りたのかはわからないが、これにはきっとすでに学説があるのだろう。しかし島国の日本と大陸とでは、気候風土も培われてきた文化にも違いがあるので、漢字を借りてきたものの、この文字と日本語の折り合いをつけていくのには長い年月がかかっている。漢字を使ったことで、失ったものも少なからずあるはずである。とはいっても、漢字輸入のおかげで「記録」できるようになり、さらにそこから日本人はカタカナや平仮名も生み出していく。まことに便利なことです。

言葉や文字、そして「音」を知ることは、その土地の人たちが歩いてきた道を知ることだと思う。『漢字類編』もまた、そのためのいくつかのヒントを提示してくれる。（一弓）